Management Club Report

Feb.2019/Vol.194

Monthly Opinion　《我が医院の組織強度を測る》

神奈川県の鎌倉、逗子界隈で毎月１回配布されている『鎌倉朝日』というタウン情報誌があります。タブロイド版8ページで１部108円はいささか高い感じがしますが、昭和54年4月の創刊といいますから既に40年も続いているわけで、現在６万部の発行と中々根強い人気を維持しているようです。

その『鎌倉朝日』の2月1日号に「ゴーン氏に学ぶ経営倫理」と題した反面教師的な評論が掲載されていました。一時絶賛された日産自動車建て直しの手腕も、５箇所の工場売却や従業員２万人の首切り、加えて下請け部品会社の株式売却による帳簿上の利益創出であったこと、しかもその利益を個人的な利益にも反映させ、それも異常な額で収めたことを一刀両断に斬り捨てていました。

その昔、石川島播磨重工や東芝の経営危機を立ち直らせた土光敏夫氏が社用車を使わず電車通勤であったこと、また近年、乞われてJALの経営再建に臨んだ稲盛和夫氏が無給で会長職を引き受け、見事成功を収めたことを引き合いに出し、次のように結んでいます。

「社員、国民の幸せを第一として経営すれば、利益に固執しなくても、社員やお客様からも信頼され、その結果、経営は自ずと順調となり適正な利益を産むというものです。」

今年の活動テーマである「強い組織の歯科医院をつくる」を考えていく上での基本スタンスは正にそこにあるのではないかと思いました。今月はそのような考えをベースに、会員の皆様の歯科医院が強い組織を目指すに当って、まず「現在の組織としての強さはどの程度なのか」を探ってみる必要があると思い「我が医院の組織強度を測る」について考えて参ります。

1　金額で測れる“強さ”、財務面をまず固める

組織の強度を計測することの重要性

事業を営む組織の強度を計測するというのはとても意味のあることです。どのような組織でも、完全や完璧といったものはありませんので、我が組織に不足するものや至らないところを発見し、そこを改善強化していくことは不断に行なわれるべきです。

また弱点が補強され万全に近い形になったとしても、時代や環境は常に変化し続けていますので、今日の完全が明日の不完全となることは往々にして経験